

ひがしはら

平成27年3月25日
学校だより 最終号
杉並区立東原中学校

“新たな期待！！”

校長 渡辺 宏

桜の開花が宣言され、ようやく春らしい日が続くようになりました。

先日行われました第64回卒業式では、3年間の思いが込められた別れのことばを後輩たちにしっかり繋ぎ、卒業生55名は立派に本校を巣立っていきました。今年も120名を切る在校生の合唱は少ない人数ではありましたが、心のこもった感動的な合唱を作り上げ、卒業生の表情は満足感に満ち溢れていました。また、当日ご出席いただいたご来賓や保護者の皆さまにも、本校の伝統ともいえる儀式的行事の文化に満足いただけたのではないかと思います。

本校で培われてきた“感謝”“恩返し”“絆”“期待に応える”“最高思いを届けよう”等は、当日歌われた卒業生や在校生合唱からしっかり伝わってきました。生徒たちのスピリットで作られられた卒業式。代表生徒たちが声にして届けてくれた「わかれの言葉」は、3年生としての責任感や1・2年生に対しての期待がしっかり伝わってきました。そのあたたかい言葉は、教職員、在校生、保護者、ご来賓の方々にも大きな感動を届けてくれました。あの日を迎えるにあたり、卒業生の皆さん一人一人が3年間という限られた時間の中、最後の1年間を最高のチームワークで取り組んでくれた結果が、あの素晴らしい卒業式になったのです。

以前勤務した学校では、練習や予行の状態に納得できなくても、本番はやるべきことをこなし、「うちの生徒たちは本番に強い。」と評されてきた学校を数校経験しました。しかし、本校は卒業式の練習段階から、生徒たちが真面目に、誠実な気持ちで取り組んでおりますので、当日を想像することが大変に楽しみになります。中学校に勤める教員として、在職中にこのような経験・体験ができる機会はそれほど多くないと思います。

どの学年も多くの行事をこなしながら、3年生に感謝の気持ちを籠めて“最高の卒業式をつくろう”“卒業式を成功させよう”といったムードが、学校の進むべき方向として定着できたのは、3学期半ば過ぎくらいではなかったでしょうか。

平成26年度も、生徒の皆さんの努力が実り本日の修了式をもって全ての授業を終えることができました。生徒一人一人が「自分らしく生きること」や「命の大切さ」を学び、将来に希望や夢を抱かせることが使命の学校において、1年間の区切りを付けることができました。

さて、月日が経つのはとても早いものです。中学生時代の3年間はとても短いものです。4月から2年生は3年生に、1年生は2年生へと、上の学年に進級します。そして、皆さんは一つずつ学年が上がることに合わせて、任される仕事が増え、責任が重くなってきます。また、4月からの新学期、東原中学校の生活に、夢をふくらませた新入生が入学してきます。

東原の伝統である“自由と責任”。平成27年度も生徒一人一人がこの意味をしっかり考え、本校が“生徒にとって理想の学び舎”となるよう、「一人一人の生徒が自覚をもって、新たな歴史を積み重ね、思いが実現する学校を創り上げて欲しい」と心から期待します。

保護者・地域の皆さま1年間ありがとうございました。来年度もよろしくお願ひ申し上げます。

☆平成27年度4月当初の予定について！

○始業式：4月6日（月）

○入学式：4月7日（火）

“教育調査の結果”～ご協力ありがとうございました～

昨年末にご協力いただきました教育調査（学校評価アンケート）ですが、集計が終わりましたので数値データについてお知らせいたします。保護者の皆様方からも多くの回答をいただきました。年末のお忙しい中ご提出くださり、本当にありがとうございました。

領域	保護者肯定率	生徒肯定率
経営全般	82.3	
小中一貫教育（実施状況）	32.7	
小中一貫教育（推進効果）	30.2	
特色ある教育活動	57.9	
学校評価	46.8	
学級経営	67.1	75.0
個に応じた指導	41.1	42.9
学習の成果		80.8
学習評価	62.9	60.1
系統的・連続的指導		62.5
生活指導体制	61.4	
道徳教育	64.2	47.0
体育・健康教育	74.8	48.2
教育相談体制	51.6	57.1
特別支援教育（理解・啓発）	18.9	
特別支援教育（交流及び共同学習）		32.9
学校安全（危機管理体制）	61.0	75.9
施設設備（ICT機器活用）	38.0	75.6
地域との協働	53.3	54.8

領域に分け、並列に集計しておりますが、より肯定率の高い（80%を超えている）項目は、保護者の「子どもの学校生活に満足している。（経営全般）」であり、本校の教育活動の根幹の部分において、概ね評価されていると感じています。また、生徒の肯定率の高い項目は、「学校の授業を受けることで、分かることやできることが少しずつ増えている。（学習の成果）」であり、落ち着いた学習環境が整い、授業を通して生徒一人一人ができる喜びを感じていることが読み取れます。

また、一方で肯定率が保護者、生徒ともに低い項目は、特別支援教育です。この集計では、「どちらでもない」という回答や「回答不能」についても全体数に含まれてしまうために、保護者の皆さまへの情報提供等が不足していると肯定率が低くなりがちです。しかし、関係諸機関と連携し、必要に応じた個別の教育支援を実施しております。また、2年生では副籍制度として、合唱祭や作品展等の行事において交流活動をすることにより、昨年度と比較すると成果が表れています。小中一貫教育では、学期に一回連携校である杉並第九小学校と、それぞれの学校の授業を公開し、合同の研修会を行っています。今年度の研修会では、それぞれの学校での生活指導についての情報交換し、お互いの良い取り組みを学校同士で学び合い、中1ギャップが少しでもなくなるように努めています。

「ICT機器活用」が、今年度から新しい項目として加わりました。保護者と生徒の数値に開きがありますが、全教室にプロジェクター（電子黒板）が配置され、各教科において有効的に活用しています。

今後も、教育調査の数値に踊らされないように学校の課題を冷静に分析し、改善を図ってまいります。教育調査のアンケート以外にも気になることがありましたら、いつでもご意見をお聞かせいただけますよう、ご協力よろしく願いいたします。